

-

* **学生なんでも相談室ニュース** 2021/3/11 発行

-



先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、誠に有難うございます。2012年度より当相談室ではニューズレター「学生なんでも相談室ニュース」を発行して、相談室の活動状況などをご紹介します。ご多忙の折、大変恐縮ですが、ぜひご覧いただけましたら幸いです。

1. 相談室利用状況から（コロナ禍の相談室）

◎令和2年度 コロナに関連した相談の状況

	4月		5月		6月		7月	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
A	36	83	43	101	27	140	27	139
B	7	7	17	26	12	26	10	27
C	0	0	6	14	5	18	7	23
(B/A)		8%		26%		19%		19%

	8月		9月		10月		11月	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
A	32	115	30	178	21	128	15	110
B	21	40	7	20	8	23	6	26
C	3	13	2	12	3	16	2	21
(B/A)		35%		11%		18%		24%

	12月		1月	
	実数	延数	実数	延数
A	15	72	16	132
B	5	12	7	23
C	2	9	3	19
(B/A)		17%		17%

- A: 相談室利用総数
- B: 「コロナ禍」が影響したと考えられる相談対応件数
- C: Bの内、「カウンセリング」を行った件数（内数）
- B/A：コロナに関連した相談の割合

上記の表は、令和2年度の当相談室における「コロナに関連した相談」の状況をまとめたものです（1月末日現在）。ご覧いただくと、必ずしも「コロナ関連」一色ということでもなく、割合で見れば**全体の20%前後程度であったこと**がわかります。ただし、これは、あくまで純粋に「コロナ禍やその影響に関する話題を扱った相談」のみを算出したものであって、実際は全てのケースにおいて、多かれ少なかれ、何らかの形でコロナの影響があったことは間違いないと思われま。また、例年であれば、夏休みや冬休みなどの長期休暇中は、かなり来談件数も少なくなっていたはずなのですが、今年度は**授業期間中と変わらないペースで利用されていた**ことがわかりました。長期休暇中だからこそ、不安や孤独感を募らせてしまうようなケースも多かったのかもしれない。

また、今回掲載はしていませんが、「コロナに関連した相談」の具体的な相談内容に関する1年間の推移を見てみると、**前期、特に初めの頃は、オンライン授業への対応に関する悩み事や不満などの話**が多く寄せられていましたが、次第に、**孤独感や気が滅入るといった種類の心理相談**が増えていったことが分かりました。長引くコロナ禍において、最初は通常とは異なる学生生活への適応に精一杯だった学生たちも、それが次第に日常となっていく中で、ようやく少しずつ自身の疲れや孤独感にも気持ちが向くようになっていったのではないかと考えられます。



なお、上記は1月末日現在の数字ですが、今年度の来談者数全体としては、昨年度と比較して**実数ベースでは大幅なマイナスとなる見込み**です。これは、例年であれば新入生からの質問や相談が殺到する4月において、新規受付と窓口案内業務を中止せざるをえなかった（新規受付は5月以降に再開）ことの影響であろうと考えられます。一方、**延数ベースでは、昨年度と比較しても同等程度の数になると見込まれています**。この結果をシンプルに解釈すれば、今年度は利用した学生一人あたりへの対応回数がより多かったことを示しているとも言えます。1年間ほぼ電話・メール・オンライン（Zoom）のみでの相談活動であった今年度でしたが、そんな中でも一定の役割を果たすことができたのではないかと考えます。



2. 新年度を迎えるにあたって

今年度は、先生方におかれましては、イレギュラーな学生対応にご苦勞をされた1年だったかと存じます。しかしながら、新年度（令和3年度）においても引き続き、少なくとも比較的学年の若い（研究活動に入っていない）学生たちについては、しばらくは現状のような対応を続ける必要がありそうです。

新入生への対応では、また今年度4月と同様の注意が求められると考えます。つまり、本来であれば新しい人間関係の形成にとっても重要な4月において、限定的な接触機会しか与えられない中で（抱えている不安の共有もままならず）、孤独に過ごす学生が一定数存在するであろうことが予想されます。特に新年度では、5月以降の対面授業に備え、当初から下宿を始める学生も今年度より多いでしょうし、その点では、さらにリスクの高い状況であると言えるかもしれません。1年生を担当される先生方におかれましては、**こちらから積極的に連絡を取るなどして、継続的に個々の学生の状況確認**をしていただきたいと思います。また、その際には、できればメールよりも**お電話で直接お話しいただく**ことで、親近感を感じてもらいやすくなり、何かあった際に学生側からも連絡が取りやすくなるのではないかと考えます。

一方、新2年生であっても、友だち作りのこと、打ち込めるものを見つけること、学力のことなど、本来であれば**1年生の段階でクリアするべき様々な課題が積み残されたままに進級している可能性**が考えられます。そもそも大学に来る機会もなかった学生がほとんどですから、大学生活の基本知識ともいえる教室の場所や履修の仕方などに関する理解が不十分であってもおかしくはありません。さらには、学生の方も「2年生にもなってこんなことを聞くのは恥ずかしい」と考えてしまうと、**困っていてもなかなか自分から支援を求めるようなことができない**かもしれません。対応される先生方におかれましては、この新年度は「**1年生が2学年分いる**」という意識をもっていただき、引き続き、基本的なことから丁寧に対応してあげて欲しいと思います。



◆このニュースレターの内容に関するお問い合わせは下記までお寄せください。

E-Mail : sodan@ab.mie-u.ac.jp

◆このニュースレターに掲載された全ての記事、文章等の無断転載を禁止します。

Copyright (C) 三重大学学生総合支援センター学生なんでも相談室. All Rights Reserved.